

【決算ハイライト】

① 2020 年上期決算 (カッコ内は 2019 年上期比)

- ・売上高=22,742 百万円(+2.1%)、経常利益=1,967 百万円(▲3.0%)
→コロナ禍の不安定な状況の中、受注残の消化等で増収を確保も、案件構成の悪化等の影響で減益。

② 2020 年度見通し[算出可能な状況となったため開示] (カッコ内は 2019 年度実績比)

- ・売上高=46,000 百万円(▲4.1%)、経常利益=3,800 百万円(▲20.9%)
→鉄鋼・一般顧客向けの売上減の影響に加え、案件構成の悪化もあり、減収減益の見通し。

③ 配当

- ・当社方針である配当性向 30%目途に基づき、100 円/株を予想。(前年度比▲20 円)

④ トピックス

- ・コロナ禍における当社の状況
→鉄鋼 ; 上期は既存案件中心で微減。下期は新規案件の回復途上で減収見通し。
一般顧客 ; 上期は既存案件で乗り切るも、下期は減収見通し。
WEB セミナーによる営業活動に活路。
基盤 ; 上期はリモートワーク環境整備の特需、下期は更なる環境整備の提案を推進し増収を確保。
- ・JFE ホールディングスが 6 年連続で「DX (旧攻めの IT 経営) 銘柄」に選定
→鉄鋼事業では、AI 活用による設備異常予兆監視が評価され受賞。
当社は引き続き JFE グループの DX 化に貢献・寄与
- ・プラチナくるみんの認定。(厚生労働省所管)
→プラチナくるみんは既にくるみん認定を受けている企業のうち、さらに高い水準の取り組みを行っている企業への特例認定制度。(当社は 7 月に認定)

(質疑応答内容)

Q1 コロナ禍で滞った受注・売上について、下期以降に、その滞った部分が上乗せされて回復してくると考えて良いのか？

A1 下期は受注は回復する見通しだが、滞った分の上乗せまでは期待できる状況にない。また、売上が回復するのは来年度以降と見込んでいる。

Q2 情報サービス業の他社はコロナ禍でも収益面では大きな影響を受けていない印象があるが、JFE システムズの業績見通しが減収減益となっている理由は？

A2 当社はコロナ禍で大きな影響を受けた製造業の顧客が売上高に占める割合が高く、当該顧客のIT投資抑制が減収減益の主な要因になっている。

Q3 JFE スチールの製鉄所システムリフレッシュプロジェクトの進捗・見通しは？

A3 JFE スチールの製鉄所システムリフレッシュプロジェクトは、コロナ禍の影響無く取り組みを進めており、今後数年にわたり、プロジェクトは継続していく見通し。

以 上